

令和6年度

研究デザイン

亀山市立亀山中学校

1. 「亀山市教育大綱 基本方針－I」及び「亀山市教育関係職員の研修方針」

教育大綱 基本方針－I

未来を拓く子どもたちの豊かな学びの実現

亀山市教育関係職員 研修基本方針

「一人ひとりの児童・生徒が個性を生かしながら

なかまとともに主体的に学ぶために」

(1) すべての子どもの学ぶ意欲を高め、社会で生きてはたらく「確かな学力」を育てる教育活動をすすめる。

(2) 教師の授業力向上を追求するとともに、系統的な指導をすすめる。

(3) 人権を尊重し、なかまとともに、豊かな心と身体をはぐくみ、

自己肯定感・自己有用感を高める教育活動をすすめる。

(4) 地域の人材や活動を活用し、地域とともに特色ある教育活動をすすめる。

2. 学校教育目標

「豊かな人間性とたくましい行動力を持つ生徒の育成」

～人とかかわる喜びを持ち、絆をつくる生徒へ～

3. 研究主題

校区研修主題

自他を認め、ともに学び合い、高め合う児童・生徒の育成

亀山中学校研修主題

主体的・協働的な生徒の育成

～ 学び合いを通して考えを広げ深める授業づくり ～



4. 研究主題設定の理由

①生徒の実態から

素直で明るく、落ち着いた学校生活を送り、近年、コロナ禍による多くの教育活動の制限の中でも、体育祭・文化祭といった行事では、集団としてのまとまりや団結により多くの成果を生み出すとともに、他を認め合い仲間の大切さやつながることの大切さを感じることができる。学習面では、授業に真面目に取り組み、基礎的な学力については概ね定着しているといえる。また、学調やみえスタの分析結果からは、地域の行事参加率や ICT の活用が全国平均より高く、意欲的に活動している生徒が多くみられる。

一方で、自分のことで精いっぱいになってしまい、周りに関われない生徒や、周りに合わせられない生徒をからかう生徒、失敗を恐れて自分の考えを出せない生徒、苦手意識を持っていたりする生徒もあり、対人関係のトラブルが増えつつある。また、家庭学習の習慣が十分に定着していない課題もみえてきた。このことからお互いが関わることを通して、思考力・判断力や表現力をつけられるような取り組みを、今年度も継続して取り組みをすすめたい。

②これまでの取組、これまでの成果・課題

前次研究では、「主体的・協働的に学ぶ生徒の育成～学び合いを通して考えを広げ深める授業づくり～」をテーマに研究を進めてきた。この研究により R4年度の課題であった「主体的に授業に取り組む生徒」が60%から66%に増加し始め、多くの生徒が「友達との話し合いの場面で新しい気づきや学びが深まる」と考えるようになった。しかし、一方で「授業を通して実際に自分の考えを深めたり、広げたりすることができるか？」という設問に「そう思う」と回答した生徒は、年間を通して50%台で大きく変化することが無かった。これこそが、本校の生徒の課題であると考え。「問」や「課題」に対して自分の考えを持ち、他者の意見を受け入れ、新たな情報や知識を得ることで、多様なものの見方や考え方もできるようになり学びも深まる。しかし、現状は、グループやペア学習、全体交流の場面において、自分の意見や考えを機械的に伝えて終わり、議論や、深める活動につながる場面が少ない。そこで、R6年度は、仲間との学び合いを通して、自分の考えを他者に伝え、さらに深め子ども達の「分かった・できた・なるほど・もっと知りたい・やりたい」などの学びの充実に繋がる授業づくりに取り組んでいきたい。

③今次研究について

今次研究では、昨年度のテーマである「主体的・協働的に学ぶ生徒の育成」を継承しつつ、新たに、「学び合いを通して考えを広げ深める授業づくり」をサブテーマとして設定した。令和3年1月に中央教育審議会から「令和の日本型学校教育」の構築を目指して答申され、次世代を切り拓く子どもたちに求められる資質、能力として「21世紀型スキル」があげられた。そのためには、「何を教えるか」という知識の質や量の改善に加え、「どのように学ぶか」という学びの質や深まりを重視すること、課題の発見と解決に向けて主体的・協働的に学ぶ授業づくりが求められている。21世紀型の学力を育成するためには何よりもまず、思考力の育成が重要であり、「考える力」をいかに育成していくかが問われている。本校の生徒は、先に述べたように、授業へ主体的に取り組めるようになってきたため、思考力・判断力や表現力といった力を高めていきたい。

そこで、今年度は「学び合いを通して考えを広げ深めることができる」生徒を育成するために、「学び合い」の場면을意図的に設定していきたい。この活動に必要なのが、『学び合いの活用』と『発問の工夫』である。この学び合いによって、自分の意見と異なる意見を交流し、ともに悩むことで新たな視点が発見され、より自分の思考を深めることができると考える。また、クラスの仲間と考えを深めるために話し表現するなかで、居心地のよい学級ができ、安心して学ぶことができると思われる。そのため、今次研究主題に設定した。全教職員が効果的な学び合いの仕掛け方や、発問を有効活用できるよう主体的に研修を深め、授業力を高めることができるように研修を進めていく。

研修期間	研修主題	副主題
2018 年	だれもが“わかる”“できる”を 実感できる授業づくり。	ユニバーサルデザインを取り入れた授業を目指して。
2019 年		主体的・対話的で深い学びの実現。
2020 年		授業での絆づくり・学びあいの実現。
2021 年		授業での絆づくり・学びあいを通して確かな学力の育成。
2022 年	主体的・協働的に学ぶ生徒の育成。	意欲の高まる指導方法の工夫を通して。
2023 年		思考ツールを活用した授業づくりを通して。

図 1. 龜山中学校における過去 6 年間の研修主題の変遷。

5. 研究主題について

本年度は上述したように、主体的に学ぶ生徒を育成するために「学び合いを通して考えを広げ深める」ことに視点を置き研究を進めていきたい。そこで、主題にせまるために、以下のように定義することとした。

① 主体的に学ぶ生徒とは

学習を自分事として捉え、自らの意思で粘り強く学習を進めたり、自分の学習を振り返ったりしながら一生懸命に学習をする生徒。

② 協働的に学ぶ生徒とは

仲間の個性を尊重しあえる関係のもと、授業において仲間と自分の考えを確認したり、比較したりしながら課題解決のために仲間と助け合いながら学習する生徒。

※学び合いを通して自分とは異なる意見に出会い、新たな気づきや発見をすることで自分をふり返し、自分の考えを広げたり深めたりすることを目指す。

6. 研究領域 授業（全教科）

7. 具体的な取組

（1）意図した学び合いがある授業づくりについて

- ① 教職員が学び合いを効果的に活用し、発問の工夫ができるよう外部講師を招聘し、自身の授業づくりに反映させる。
- ② 研修週間の実施
 - ・年間を通した5人グループを設定（異年齢による教科横断的交流を実現）
 - ・研究テーマに関わる授業を全員が実施（全員が実施することで、より研究への意識が高まる）
 - ・参加者はその授業から自身の授業に取り入れられる点や新たな気づきを抽出
 - ・学期に1度、グループ内の先生の授業参観を必ず行う。（方法は後日提案）
 - ・年間を通してグループで、どのような授業を実践したかパワーポイントにまとめ全体交流。（随時作成していく）
- ③ 授業研究会の実施
 - 一つのグループの代表者が、学び合いを活用した授業を実施し、全教職員で参観し、事後検討を実施する。
- ④ 年間を通して、生徒用質問紙調査を実施することで生徒の変容を視覚化する。質問紙調査結果をもとに随時、研修指導部主催の取組や主体的に取組む手立ての見直し改善を図る。

（2）生徒理解に向けた取組について

多文化共生、不登校・別室登校生徒への学習支援、生徒指導、人権教育に関する研修会の場を持ち、生徒理解を深める。

（3）教職員団の高まりについて

学校の事情や教育課題に応じて、その都度、OJT（On the Job Training）による研修の場を実施し、豊富な経験のある先生方から援助や助言を頂き、同僚同士で高め合うことによって、若手教員の育成にも繋がる。また、互いに相談しやすい雰囲気を作る。

8.研究構造図

